

# 令和5年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川小学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧ください＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧くださいの方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることが出来る調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。



## ＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「令和5年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

### 1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

### 3 調査実施日

令和5年4月18日(火)：国語・算数  
4月25日(月)：質問紙調査

#### 4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校調査は、国語、算数とする。</li> <li>・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。</li> <li>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容</li> <li>・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。</li> </ul>	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

### 本校の調査結果の概況

#### 小学校

<教科に関する調査>   は全国平均正答率を上回ったもの



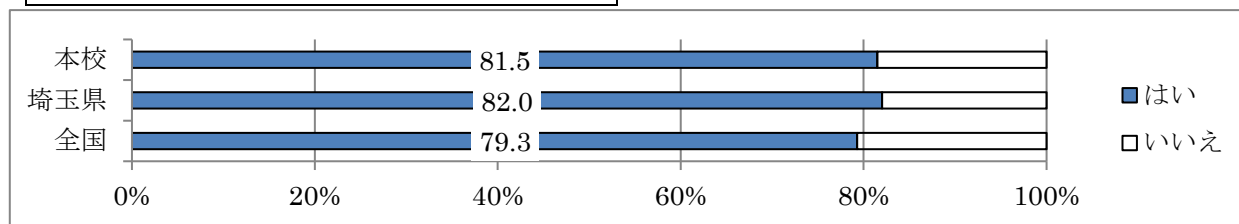
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	81.2	72.8	71.2
情報の扱い方に関する事項	2	67.8	64.4	63.4
話すこと・聞くこと	3	81.5	73.9	72.6
書くこと	1	27.7	26.1	26.7
読むこと	3	77.9	72.5	71.2

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	71.0	67.1	67.3
図形	4	49.8	47.8	48.2
変化と関係	4	70.5	71.0	70.9
データの活用	3	73.3	66.3	65.5

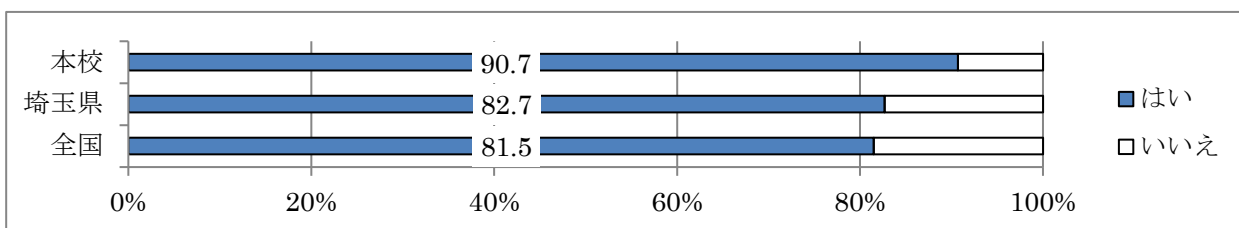
＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う  
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

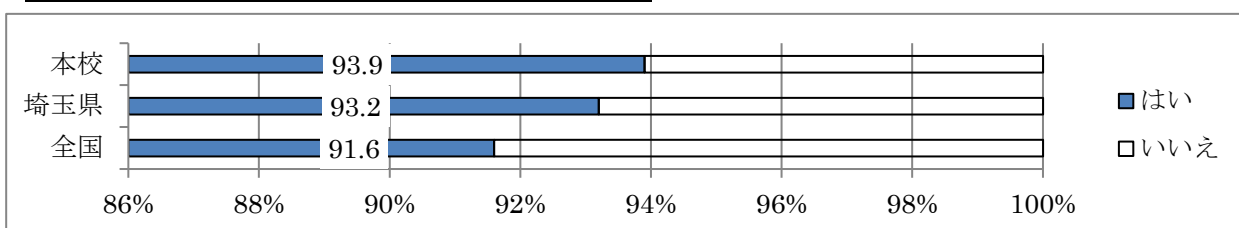
自分には良いところがあると思いますか。



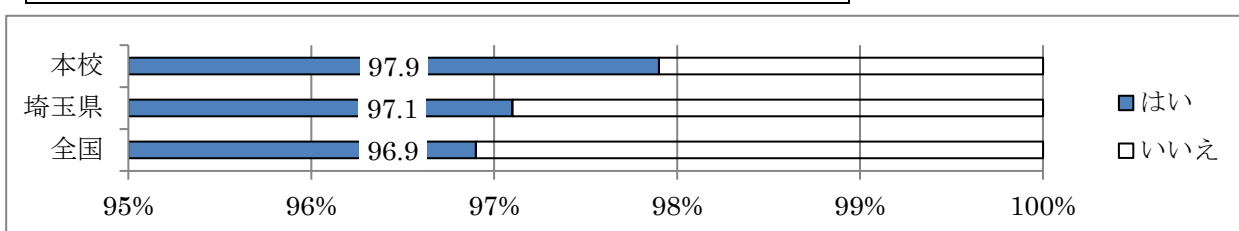
将来の夢や目標を持っていますか。



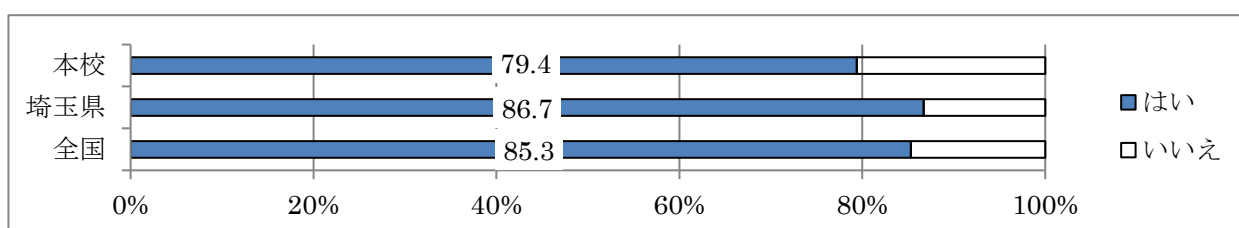
人が困っているときは、進んで助けていますか。



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



学校に行くのは楽しいと思いますか。



## 本校の調査結果の分析・考察

### <国 語>

#### 【領域別】

どの領域においても全国の平均正答率を上回りました。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」は10.0ポイント、「話すこと・聞くこと」は8.9ポイント高い平均正答率となりました。

#### 【問題】

○正答率の高かった問題

##### 【問題3の一(2)】

谷さんが、\_\_\_\_\_部イのように質問した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

(\_\_\_\_\_部イ → すてきな姿というのは、どのような姿ですか。)

- 1 相手の活動の予定を、より具体的に知るため。
- 2 相手の話の内容を、より具体的に知るため。
- 3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
- 4 自分の行動が可能かどうかを相手に確かめるため。

##### 【正答】

2と解答しているもの

(正答率：全国74.0% 埼玉県75.4% **本校85.1%**)

この設問は、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと  
との中心を捉えることができるかどうかをみている設問です。

必要なことを質問するとは、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問すること  
です。谷さんは、寺田さんの発言の「すてきな姿」という言葉を取り上げて、「どのような  
姿ですか。」と質問し、寺田さんは「一人で下校する友達に声をかけている姿や、上級生が下  
級生の手を引いて歩いている姿などです。」と答えています。ここでは、谷さんの質問が、相  
手の話の内容について、より具体的に知るためのものであることを捉えることが求められて  
います。

本校児童は、文章（インタビューの様子）をよく読むことで、書いてあることの意味やそ  
の意図を適切に理解していることが想定されます。今後も、話し手が伝えたいことやその意  
図を読み取ったり、自分が聞きたいこと  
の中心を捉えより具体的に知るために質問したり  
することができるよう、授業ではグループで意見交換したり、意見をまとめたりする活動を展  
開してまいります。

## 【問題】

○正答率の低かった問題

### 【問題1の二】

川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ・学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
- ・問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
- ・六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

### 【解答】

（正答の条件）

次の条件を満たしている。

- ① 学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。
  - a 【川村さんの文章】のグラフから分かること。
  - b 【カード④】から分かること。
- ② 問題点の解決方法について、【カード⑤】をもとにして書いている。
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。

（正答率：全国26.7% 埼玉県26.1% 本校27.7%）

（正答例）

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

この設問は、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る設問です。

自分の考えが伝わるように文章を書くには、図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫することが大切となります。川村さんは、選んだカードや自分で作成したグラフを用いて、米作りの問題点と解決方法について文章を書いています。ここでは、【川村さんの文章】のグラフと【カード④】のそれぞれから分かる学校の米作りの問題点と、【カード⑤】を基にした問題点の解決方法を、60字以上、100字以内で書くことが求められています。

情報を読み取り、原因と結果、その解決方法について条件を満たすように適切に文章を書くことは、慣れないと難しく、繰り返しの練習が欠かせません。物語や説明文の初発の感想や登場人物の心の移り変わった理由などを書く際に、条件を与え、書く内容を焦点化してまとめられるよう授業を展開してまいります。

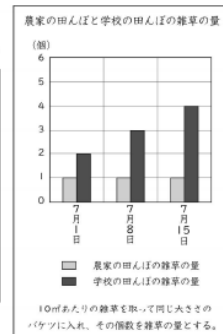
### 【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア이가いに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。うきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組む、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

## <算 数>

### 【領域別】

「数と計算」「図形」「データの活用」で全国の平均正答率を上回りました。特に「データの活用」は7.8ポイント高い平均正答率となりました。「変化と関係」は全国の平均正答率を下回りましたが、0.4ポイント低い結果となっています。

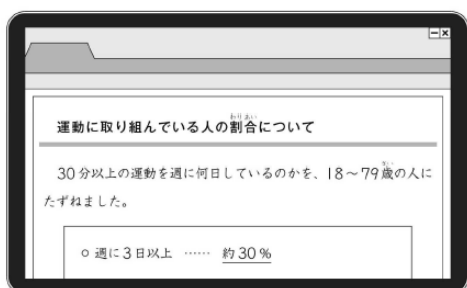
### 【問題】

○正答率の高かった問題

#### 【問題4の(2)】

4

あいかさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。



1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

### 【正答】

5と解答しているもの

(正答率：全国75.7% 埼玉県77.0% 本校88.1%)

この設問は、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる設問です。

示された表から、データの特徴を捉え考察したり、見いだしたことを表現したりすることができるようにするためには、データを分類整理し、表に表したり読んだりすることができるようにすることは大切です。ここでは、表の合計欄から、運動した時間の合計が30分以上の日数を読み取るために、「30分以上」は30分と同じか、それより長い時間であることを理解していることが必要となります。

高学年になるにつれて、表やグラフなどの情報の読み取りが複雑になってきますが、本校児童は「以上」「以下」「未満」の用語の意味をよく理解しているため正答率が高かったのではないかと推察されます。学校で学ぶ用語や言葉には、日常の生活で目にするものは非常に多くあります。日常の生活の中での様々な場面で用語や言葉が適切に使用されているのではないのでしょうか。今後も児童の学びを日常の生活に生かせるように授業を工夫してまいります。

## 【問題】

○正答率の低かった問題

### 【問題2の(4)】

- (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

### 【正答】

3を選び、次の①、②の全てを書いているもの

- ① 三角形㊸と三角形㊹の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
- ② 三角形㊸と三角形㊹の高さが等しいことを表す言葉

(正答率：全国20.8% 埼玉県16.6% 本校8.9%)

(正答例)

<番号> 3

<わけ> 三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

この設問は、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問です。

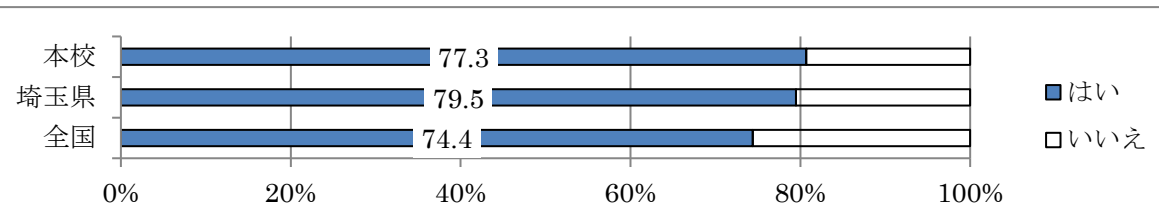
基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにすることが大切です。ここでは、二つの三角形の面積の大小を判断するために、平行な二つの直線の幅はどこでも等しいことに着目し、示された三角形の底辺と高さを適切にとらえることが必要となります。その際、二つの三角形の面積が等しい理由を記述する上で、次の二つの事柄を書くことが必要です。

- ・三角形㊸と三角形㊹の底辺の長さが等しいこと
- ・三角形㊸と三角形㊹の高さが等しいこと

算数は、領域によって得手不得手がでてしまうことがあります。カードや立体などのものを実際に扱いながら、それぞれの図形の特性に触れていく活動を多く取り入れるようにし、図形学習の素地を身につかせます。また、具体から抽象へと段階的に理解が進むように授業の展開を工夫してまいります。

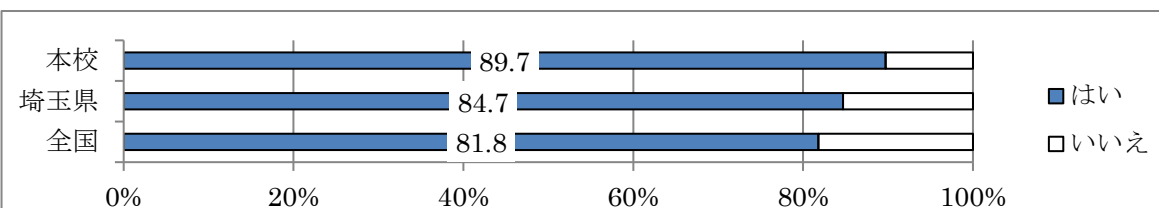
## <質問紙調査から>

5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



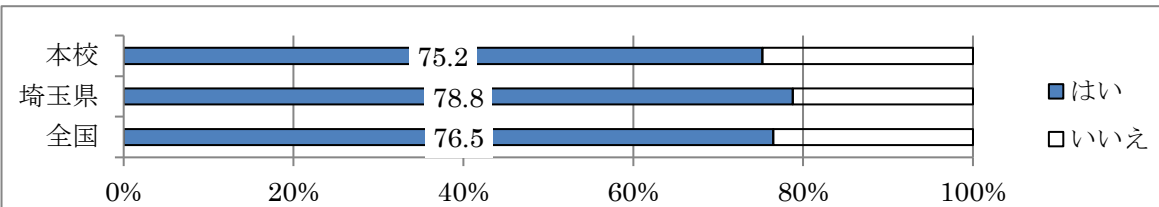
学んだことを生かし、考えをまとめることは大切な能力です。自分の考えや情報を活用し、適切にまとめ、処理して能力を高めることができるように今後も授業を工夫してまいります。

学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



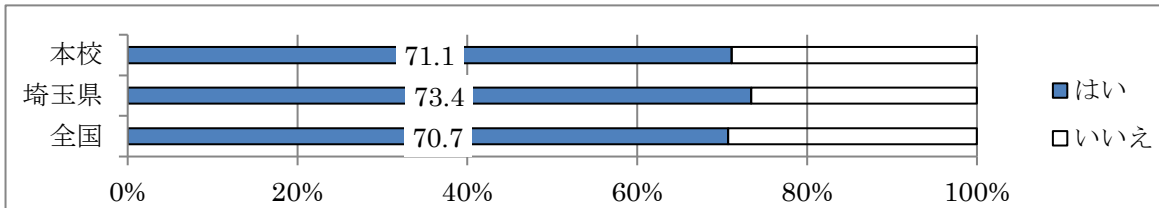
他者と交流することは、自分を見直したり、新たな一面に触れたりすることができるよい機会となります。考え方についても同様で、多種多様な考え方に触れ、自分の考えを深め、広げることにつながります。学校では、その考えを表現していくことにも重点をおいて指導を進めてまいります。

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか。



自分の考えと違う考え・意見とを比較し、自分の考えに反映させていくことは、考えを見直したり、新たな発見に気づいたりすることにつながります。学校では、児童個々の考えを大切に、「みんな違って、みんないい」の精神で児童が自分の考えに自信をもち、他者の考えも認められる環境づくりを進めてまいります。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



勉強をするための計画を立てることは、中学校、高等学校へと進学を進めていくことを見据えると非常に大切なことと考えます。自分のことを周囲からアプローチされるのではなく、自分から進んで実践していくことは、普段の生活の中でも求められることです。今後も児童自身が進んで実践していくことができるよう、適切な声かけ、サポートをしてまいります。



# <埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

## 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。  
 参考：[埼玉県学力・学習状況調査](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html) 埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

## 2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

## 3 調査実施日

令和5年5月10日（水）

## 4 調査の内容

### （1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数  
 ※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

## 本校の調査結果の概況

<教科に関する調査>   は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	17	68.8	68.0	14	72.3	69.3	14	74.7	71.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	6	69.3	64.2	7	59.3	61.3	3	49.8	47.7
話すこと・聞くこと・書くこと	5	48.0	51.3	4	60.4	60.0	5	50.9	51.3
読むこと	3	53.0	57.5	6	48.9	51.0	9	52.6	53.8
※学力の伸びた児童の割合				↑↑↑↑			↑↑↑↑↑		

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	71.7	71.7	14	57.6	63.4	13	59.9	60.2
図形	6	56.7	56.5	8	56.9	61.3	8	61.7	60.3
4年測定 5,6年変化と関係	6	57.2	56.5	6	54.8	64.2	7	51.5	53.9
データの活用	6	63.3	61.7	4	57.4	63.4	5	43.2	44.3
※学力の伸びた児童の割合				↑↑↑			↑↑↑		

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年	
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	92.0	93.1	93.9	
		<b>94.4</b>	<b>95.3</b>	<b>94.9</b>	
	② 授業の開始時刻	90.6	91.9	94.4	
		<b>95.6</b>	<b>92.5</b>	<b>93.9</b>	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	82.1	81.8	85.8	
		<b>84.4</b>	<b>74.8</b>	<b>80.8</b>	
④ 整理整頓	79.3	76.4	77.1		
	<b>82.2</b>	<b>74.8</b>	<b>71.7</b>		
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ	80.3	77.4	77.7	
		<b>85.6</b>	<b>74.8</b>	<b>76.8</b>	
	⑥ 返事	90.0	88.1	87.8	
		<b>94.4</b>	<b>89.7</b>	<b>88.9</b>	
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ 正しい言葉づかい	85.7	86.6	88.8	
		<b>85.6</b>	<b>88.8</b>	<b>93.9</b>	
⑧ やさしい言葉づかい	86.4	84.7	85.1		
	<b>88.9</b>	<b>81.3</b>	<b>86.9</b>		
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備	84.6	85.3	86.6	
		<b>91.1</b>	<b>79.4</b>	<b>88.9</b>	
	⑩ 話を聞き発表する	80.9	77.3	74.4	
		<b>71.1</b>	<b>64.5</b>	<b>75.8</b>	
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	86.7	84.7	85.7	
		<b>88.9</b>	<b>83.2</b>	<b>92.9</b>	
⑫ 掃除・美化活動	91.8	89.2	87.9		
	<b>94.4</b>	<b>87.9</b>	<b>90.9</b>		

## 本校の学力向上の取組

### 授業における取組

#### ☆個に応じた指導方法で指導の充実を図ります

- (1) ティーム・ティーチング（二人以上で指導する方法）や少人数指導（1クラスの人数を少なくして指導する方法）を主に算数科の指導において積極的に活用し、きめ細やかな指導をします。
- (2) 高学年の算数科では、新しい単元に入る前にレディネステストを行い、児童の既習事項の理解度を確認してから指導します。
- (3) 全ての児童に、既習事項と関連させた課題解決に向けた自分のなりの考え（見通し）をもたせられるように指導します。
- (4) 授業の終わりに「振り返り」の時間を必ずとり、自分の考えの変容や成長を確認したり、新たな問いや疑問をもったりすることができるようにします。

#### ■学び合いの環境の充実を図り、児童の主体的に学ぶ力の育成を図ります。

- (1) 友達の考え方に触れ、自分の考えと比較したり、新しい考え方に出会ったり、個々で調べた意見を統合したりするなど、幅広く児童同士が活動する学び合いの時間を作ります。
- (2) 協働学習の円滑化や情報活用能力の育成等を目指し、ICT機器（タブレット端末）の積極的な活用をします。

### 授業以外での取組

#### ☆家庭学習の取組を継続して行います（家庭学習プラン）

- (1) 保護者の方々にご協力いただき、年3回児童の家庭学習の機会を作り出し、家庭における学習習慣を身に付けさせます。
- (2) 家庭学習の時間の目安と取り組み方を提示し、宿題＋自主学習に取り組みます。
- (3) 学校と保護者とがサインやコメントで連絡を取り合いながら行う家庭学習（家庭学習キャンペーン）を学期に1回ずつ1週間行う取組を推進します。  
(2～6年生…年に3回、1年…2学期より年に2回)
- (4) 家庭向けに家庭学習だよりを発行します。

#### ■ICT機器（タブレット端末）を積極的に活用します

- (1) 職員がICT機器（タブレット端末）を有効活用できるように積極的に学び続けます。
- (2) 児童の操作スキルや情報活用力の向上を図り、授業に生かします。
- (3) 児童が適切にICT機器（タブレット端末）が利活用ができるように、情報モラルの指導をします。

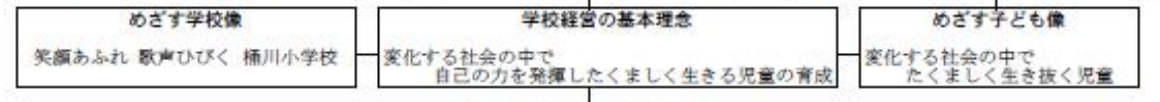
#### ☆…成果を上げたと考えられる取組

#### ■…課題を解決するための取組

# 本校の学力向上プラン

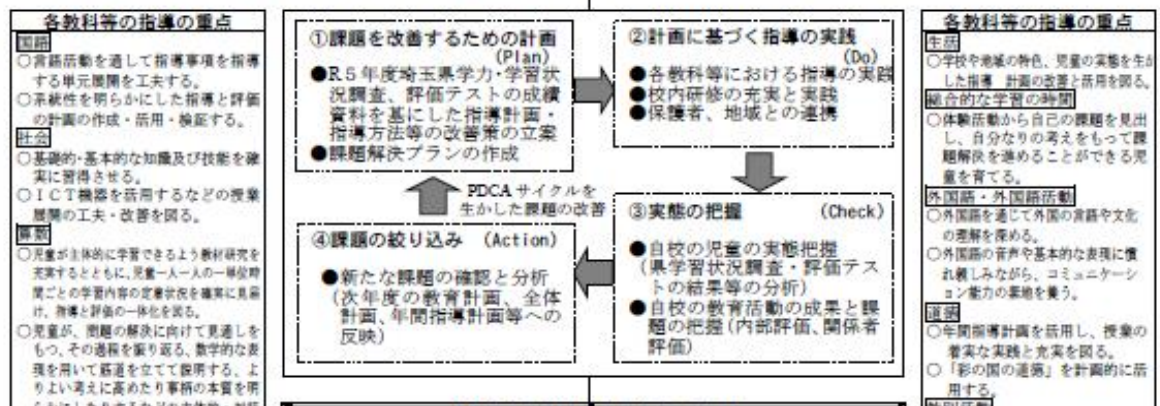
## 令和5年度 学力向上全体計画

桶川市立桶川小学校



**【本校の課題】**

- ・「身の回りの整理整頓をする」や「学習のきまりを守る」に課題が見られる。
- ・記述式の問題の正答率が低く、他の問題と比較し無解答率がやや高い傾向が見られる。
- ・自分の意見や考え、解き方を相手に伝えるように工夫して話したり書き表したりすることが苦手である。
- ・文章の内容から適切に情報を採り抜き、相手に意図が伝わるようまとめ表現することに課題がある。



**各教科等の指導の重点**

**生活**

- 学校や地域の特色、児童の実態を生かした指導・計画の改善と活用を図る。

**総合的な学習の時間**

- 体験活動から自己の課題を見出し、自分なりの考えをもって課題解決を進めることができる児童を育てる。

**外国語・外国語活動**

- 外国語を通じて外国の言語や文化の理解を深める。
- 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の基盤を養う。

**読書**

- 年間指導計画を活用し、授業の着実な実践と充実を図る。
- 「彩の国の読書」を計画的に活用する。

**特別活動**

- 生活をよりよくするための課題を見出し、解決するための児童の自発的・自立的な活動が充実するよう指導する。

**生徒指導**

- 全教職員が共通理解に基づいた校内指導体制の充実を図る。
- 基本的な生活習慣を身につかせ、自発的・自主的に行動できる児童を育成する。

**【改善状況を把握する指標の設定】**

- 全国・埼玉県学力学習状況調査
  - ・記述式の問題形式正答率を上げ、無回答率を下げる。
  - ・「身の回りの整理整頓をする」と「学習のきまりを守る」の項目を80%以上にする。
- 埼玉県学力学習状況調査
  - ・国語・算数の学力を伸ばした児童の割合を75%以上にする。

	I	II	III	IV	V	VI
<b>改善の観点</b>	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修の計画と実践の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<b>取組の基本方針</b>	基礎・基本の確実な定着と活用能力の育成を図る。思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動の充実を図る。学習規律を徹底する。	桶川小の実態にあわせたい教育課程の編成を行う。	「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、新学習指導要領に関する研修を行う。年間指導計画等を計画的に実施する。	児童一人一人が意欲をもって取り組み、一人一人のよさを伸ばすことができるように、指導と評価の一体化を図る。	「算数科」の研究を通して、「自ら課題を見つけ、粘り強く学習に向かう児童の育成」のため、授業力の向上と授業改善を目指す。	家庭地域と連携し、学習規律、生活規律を身に付けさせる。
<b>課題解決のための具体的取組</b>	・「授業1時間プラン」の実施 ・教科担任制(高学年)の実施 ・少人数指導の実施(3年より、学年によって能力別とする。) ・教育指導補助員による個別支援 ・ICTを活用した指導方法の充実 ・タブレット型端末を活用した授業の実践 ・児童の意見集約。共有 ・大型提示モニターを活用した資料提示	・各教科、各学年間の系統的、発展的指導の工夫 ・単元の配当時間の工夫 ・調べ方やまとめ方、表現の方法など、異なる教科間の連携を図る指導時期の工夫 ・体験的な学習問題解決的な学習の計画的な位置付け ・ICT使用を取り入れた授業計画の作成	・新学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成 ・教材教具の作成と工夫 ・言語活動の充実を図る指導計画の実施 ・情報の選択・活用方法や情報モラルの指導の工夫 ・ICTの効果的な活用方法の工夫	・学習のねらいの明確化 ・単元末テスト、小テストの研究と実施 ・評価、評定の標準や手立ての工夫 ・児童の自己評価、相互評価を通して、自己評価能力の向上と自分や他者のよさを認め合う風土の醸成	・学校課題研究推進委員会を中心としたPDCAサイクルを営んだ研修計画の立案 ・学力向上推進委員会を中心とした、学力向上研修の実施。(学力学習状況調査の問題の解き直しと結果の分析を全員で行う。) ・研究組織の創意工夫 ・校内授業研究会の実施 ・市教育委員会との連携 ・市教研との連携	・「規律」「学力」「体力」に係る家庭での取組の一層の推進「桶川小みんなの約束」の徹底 ・「家庭学習プラン」による家庭学習の習慣化と学力の向上 ・家庭学習キャンペーンの実施 ・生活習慣の改善 ・家庭教育の啓蒙 ・PTA活動の活性化 ・学校応援団の活用 ・HPによるアピール ・幼保中連携の充実
<b>関連する行事等</b>	・読み聞かせ ・校内研修	・校内研修 ・教育課程編成委員会 ・運営委員会	・校内研修 ・運営委員会 ・教科等部会	・校内研修 ・運営委員会 ・学年会	・合同訪問での授業公開・授業研究 ・校内授業研究会 ・市教研授業研究会等	・学校公開・授業公開 ・懇談会・PTA総会 ・個別面談・学校便り ・家庭学習キャンペーン

## 保護者・地域の皆様へ

日頃から桶川小学校の教育活動に、ご協力、ご支援いただきありがとうございます。数値は本校の児童の傾向を表したものです。当然、個々のお子さんの結果とは異なる点も見られるはずです。学校では、児童全体の傾向を意識してわかる授業を展開してまいります。また、児童のよさを伸ばし、苦手を克服できるように、そして「できた」、「わかった」の気持ちをもてるように、個人を大切に指導してまいります。

学力向上は学校だけでなく、家庭・地域の連携のもと学んだことを確認したり、生かしたりする場が確保されることで実現します。そのため、学校から発信する各種のお手紙や課題として取り組んだものに目を通していただき、学習内容をお子さんと確認し、支援していただけると助かります。これからも本校の教育活動にご理解いただき、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

### ☆家庭生活において

- ① 規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。
  - ・早ね、早起き、朝ごはん
  - ・時間の使い方（ゲーム、テレビ、スマホ等）を家庭のルールとして決めてください。（目の健康のためにも）
- ② 家庭学習に取り組ませてください。下記は、目安の時間です。

1年生…20分	2年生…30分	3年生…40分
4年生…50分	5・6年生…60分	
- ③ 持ち物の確認・準備をさせてください。（忘れ物をなくすために）
  - ・授業で必要なものをしっかり用意することが学習の一步です。忘れ物をなくすために家庭で声かけをよろしくお願いいたします。最終的には、お子さんが一人で準備できることが目標です。